

第1回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議

会 議 録

日 時：令和元年7月12日（金）午後2時45分開会
場 所：札幌グランドホテル東館地下1階クリスタルホール

1 開 会

○事務局（小西まちづくり政策局長） それでは、第1回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議を開催させていただきます。

本日はご多忙の中ご臨席賜りまして、誠にありがとうございます。私、進行を務めさせていただきます札幌市まちづくり政策局長の小西でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の進め方でございますが、お手元の次第でございますとおり、札幌市より本年3月に策定させていただきました「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の概要や今後のスケジュール等についてご説明させていただいた後、皆様と意見交換を行わせていただく予定です。

それでは、開催に当たりまして札幌市長・秋元克広よりご挨拶申し上げます。

○札幌市（秋元市長） 本日は大変お忙しい中お集まりをいただきまして、ありがとうございます。

今日は、北海道から長尾地域振興局長にもご出席をいただいております。後ほどご意見等もちょうだいできればと思っております。また、各振興局、総合振興局の皆様にもお越しいただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ご案内のとおり、本年3月に私ども札幌市と、今日お集まりの7市3町1村、11自治体の皆様方とそれぞれ連携中枢都市圏形成に係る連携協定を締結させていただいたところがございます。今、全国で連携中枢都市圏は4月1日現在で32ございますが、私どもの「さっぽろ連携中枢都市圏」は圏域人口が約260万人と、全国32ある連携中枢都市圏の中で最大規模となります。

振り返りますと、昨年2月に関係市町村長の皆様方にお声かけをさせていただき、この連携中枢都市圏の形成に向けた協議を進めさせていただくことになりました。その後1年余りで「さっぽろ連携中枢都市圏」の形成に至ることができまして、各市町村長さま、そして事務方の皆様方とも大変密な連絡協議をさせていただき、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

3月に策定をいたしました「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」では、住みたくなる、投資したくなる、そしてさまざまな面でこの連携中枢都市圏が選ばれる圏域となりますことを将来像として掲げているところでございます。

これからさまざまな分野における事業を進めてまいります。現時点で全40の事業に取り組むこととなっております。まずは経済分野の取組を中心といたしまして、その成果を着実に積み重ねていくことが将来像の実現に向けた第一歩であると考えております。

札幌市といたしましても、今年6月に庁内横断的な組織であります連携中枢都市圏推進本部を立ち上げさせていただきました。札幌市におきましても全庁を挙げてこの「さっぽろ圏」に係る取組を推進してまいりたいと考えているところでございます。

これから皆様方との連携をさらに深めながら、ビジョンに掲げている事業を進めていく

ことはもちろんでございますが、それぞれの市町村が抱えている課題、新たな行政課題などに対しましても圏域として向き合ってまいりたいと考えているところでございます。

本日は限られた時間ではございますが、皆様方との意見交換を通じまして現状の課題、さらには圏域への思いを共有させていただきながら、この会議を一致団結した取組に向けたキックオフの場にしたいと考えているところでございます。忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

2 概要等説明

○事務局（小西まちづくり政策局長） それでは、まず札幌市まちづくり政策局政策企画部長の芝井より「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の概要や今後のスケジュール等についてご説明をさせていただきます。

○事務局（芝井政策企画部長） 札幌市政策企画部長の芝井と申します。よろしくお願いいたします。

お手元に資料2、3、4とございます。このうち、初めにA3横の資料2を使ってご説明申し上げます。

「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の概要でございます。

まず、資料2左側の「Ⅰ 連携中枢都市圏の形成に向けて」と「Ⅱ-1 圏域の概況」は制度の枠組みなどについてでございますので、今回は説明を省略させていただきます。なお、星のマークがついた「さっぽろ連携中枢都市圏イメージロゴ」は札幌市立大学の学生さんにつくっていただいたものでございます。連携事業の実施などに際しまして使っていただければ幸いです。

それから、資料2右側の「Ⅱ-2 圏域の中長期的な将来像」についてであります。先ほども秋元市長から話がありましたが、「住みたくなる」「投資したくなる」、「選ばれる」さっぽろ圏域という将来像を掲げまして、投資や人材を呼び込む人材育成、安全・安心や持続可能な行政サービスなどについて重点的に取り組むこととしております。

また、現在約260万人であります圏域人口がこのままでは2040年時点で約235万人へと減少していく見込みとなっておりますが、2040年時点で240万人以上確保することを目標として掲げてございます。

それから、資料2右側「Ⅲ 計画の体系」についてでございます。表の中で3つの役割を掲げておりますが、経済成長の牽引については9事業、高次の都市機能の集積・強化について6事業、生活関連機能サービスの向上について25事業で、それぞれ取組を進めていくこととしております。

裏面をご覧いただきたいと思っております。

ただいまご説明申し上げました役割ごとの連携事業について、その主なものを抜粋したのものになります。3つの役割ごとにKPI、いわゆる重要業績評価指標を設定してござい

すほか、ビジョンの本書でもそれぞれの連携事業ごとの目標を記載しております。

主な連携事業といたしましては、移住の促進、小学生のオーケストラ鑑賞などこれまで札幌広域圏組合で実施しておりました事業を基本的に続けますほか、経済成長の牽引など可能な限り新しい取組を計上してございます。

資料2裏面右側「V 計画の推進体制」をご覧ください。今後、年1回本会議を行ってまいりますほか、昨年度は3回開催いたしました「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会」を年に1回、また実務者レベルの会議を年6回程度開催していく予定でございます。それらの会議やそれぞれの連携事業を通じて、協議や見直しなどを進めてまいります。

次に、主な連携事業の進捗状況についてご説明をしたいと思います。資料3をご覧ください。

「連携した企業誘致の推進」についてですが、今年度から札幌圏設備投資促進補助金の適用地域を、これまでの8市町に岩見沢市さんと南幌町さんを加えて圏域内10市町に拡大をしてございます。

また、今年11月に「さっぽろ圏」として道外における産業展示会に出展を予定しております。圏域全体で一層の企業誘致の推進を図っていかうと考えております。

次に、「創業の促進」についてですが、今年5月以降、起業志望者向けの講座の募集を行い、順次開催することとしております。また、現経営者、創業希望者における事業承継を図るためのマッチング事業、さらには創業の機運を高めるためのプロモーションなどを圏域全体で進めてまいります。

次に、「新産業の育成に向けた支援」についてであります。今年から「食」や「健康医療」、「IT」、「環境・エネルギー」、「製造」分野の新製品や新技術開発などに対する支援範囲を圏域全体に拡大して支援を展開してまいります。

次に、「共同プロモーションや観光資源の活用等の推進」であります。今月設置を予定しております圏域内全市町村で構成する協議会におきまして、観光客動態調査の実施や戦略的な共同プロモーションの展開を行ってまいります。

次に、「社会や企業等のニーズに対応できる人材の育成」についてであります。「地域課題」と「学生」のマッチングによるそれぞれの地域課題を解決するプログラムについて、その参加者をこの7月8日から公募しております。今後は圏域内の大学生などによる具体的な解決策の検討・実施、さらには報告会の開催などを予定しております。

次に、「文化的な教育活動の充実に向けた取組の推進」についてであります。これまで札幌広域圏組合において行ってまいりましたジュニアコンサート事業を継承し、圏域内の小学6年生にコンサートホールKitaraにおけるオーケストラの鑑賞機会を引き続き提供していきたいと思っております。

次に、「女性活躍の推進」についてであります。7月16日に小樽商科大学におきまして、「出張版SAPPOROライフデザインカフェ」と題しまして、11月に開催を予定しております「女性応援フェスタ」のイベントを開催したいと考えております。本事業につ

きましては、来年度以降も圏域内の大学などにおいて順次イベントを開催させていただいて、圏域内における女性活躍の機運を醸成していきたいと考えております。

「消防の連携・協力の推進」につきましては、2025年度からの消防指令業務の共同運用開始に向けて引き続き調整をまいります。

「圏域外からの移住促進」でございますけれども、現在、さっぽろ圏移住担当者会議などにおける企画・立案を行っておりまして、今後、首都圏における移住イベントなどの開催を進めてまいります。

次に、「企業によるまちづくり活動の促進」ですが、この会議の終了後に予定しております「さっぽろ連携中枢都市圏『まちづくりパートナー協定』調印式」におきまして15企業様と協定を締結し、各企業様とともに圏域の魅力・活力の向上に資するさまざまな連携した取組を進めていきたいと考えております。

最後に、今後のスケジュールについてであります。資料4をご覧ください。

今年度は、本日の首長会議のほか、引き続き定期的な実務者会議や年度末のビジョン懇談会を予定しております。また、現在、札幌市におきまして次期中期実施計画の策定を進めております。その過程の中でさらなる連携事業の充実や強化を図り、「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の改定をしていきたいと考えております。その内容などにつきましては随時協議させていただきたいと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

私からは以上でございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 説明は以上でございます。

3 意見交換等

○事務局（小西まちづくり政策局長） それでは、意見交換に入らせていただきたいと思います。

恐縮でございますが、小樽市の迫市長から時計回りに連携中枢都市圏の取組に対する期待や市町村におけます現状の課題等についてご発言をお願いしたいと思います。

それでは、迫市長、お願いいたします。

○小樽市（迫市長） このたびさっぽろ連携中枢都市圏の仲間入りをさせていただいたということで、まずもって感謝とお礼を申し上げたいと思います。

私どもは平成22年に「北しりべし定住自立圏構想」を北後志の余市、仁木、古平、積丹、赤井川、そして小樽市の1市5町村で締結をしております、その定住自立圏構想の中心都市でもありますので、小樽市として、あるいは中心都市の小樽市としての考え方などもこの会議の中でお話をさせていただければと思っているところでございます。

私どもの思いといたしましては、人口が減少していく中で持続可能な行政サービスを提供していく上で、やはり連携というのは重要だと考えているところでございます。札幌市が持っている豊富な施設、集積している人口、大変多くの観光客などのメリットを感じながらも、札幌市にも私ども周辺自治体が持っている魅力、特性なども感じ取っていただき

ながら、ともに連携をしていくという考え方が必要なのではないかと考えております。

決して札幌市におんぶにだっこという考え方ではございません。また、連携の考え方として周辺都市の衰退が指摘される場面も多々ありますが、連携中枢都市圏の協定を結ぶことが目的ではなく、これはあくまでも手段であって、目的は、それぞれの自治体の持続可能な行政サービスをどのように維持していくのか、これが最大のテーマだと思います。これから関係自治体の皆さんとしっかりと議論させていただきながら、私たちのまちづくりに役立てていきたいと思っております。

私からは以上でございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

次に、岩見沢市の飯川副市長、お願いいたします。

○岩見沢市（飯川副市長） 岩見沢市副市長の飯川でございます。松野市長でございますが、地域の用務によりましてどうしても出席がかないませんでした。申し訳ございません。私からお話をさせていただきます。

市における現状と課題ということから申しますと、やはり最重要課題は人口減少の問題です。総合戦略に基づきまして、子育て支援あるいは移住・定住対策、雇用対策など予算を重点配分して施策に取り組んでいるところでございますけれども、現状といたしまして年間1,000人ほど人口減少している状況でございます。減少に伴いまして、経済・産業の衰退や雇用の場の不足により、ここがポイントですが、やはり農村部、山間部などで地域コミュニティや公共交通の維持が難しくなっています。また、農業などの担い手、企業等のニーズに対応できる人材の不足が大きな課題となっております。

そして、岩見沢市は平成18年に北村、栗沢町と合併いたしまして、公共施設が大幅に増えました。そのため、毎年の維持管理経費、更新経費が増大している中で、昨年度再編基本計画をつくり、統廃合を進めているところでございますが、今後人口減少が続く中で、全ての公共施設を維持するのがより難しくなってくるのではないかと考えてございます。

「さっぽろ圏」に対する期待という観点で申し上げますと、災害の連携はもちろんでございますが、やはり連携した企業の誘致、企業とのかかわりを深めていく中での企業進出、さらには設備投資支援を通じました育成など、まずは雇用の場の創出・確保が大事だと思っております。

また、後ほど調印式が行われます「まちづくりパートナー協定」では、災害に対する連携あるいは企業との共同研究、情報発信協力の取組による市民サービスの質の向上などを期待してございます。

岩見沢市の持つ特徴と「さっぽろ圏」の持つ都市機能が、連携による相乗効果で観光、企業誘致、移住促進など地域の活性化につながっていくことを期待しているところでございます。

以上でございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

次に、江別市の三好市長、お願いいたします。

○江別市（三好市長） 江別市の三好でございます。

まず、今回の連携中枢都市圏構想には大いに期待をしてございます。これまで、総務省も含めて国はさまざまな広域連携的なものを提案しております。しかしながら、先ほど小樽市さんからもありましたが、定住自立圏が今回の連携中枢都市圏という形で名前を変えていて、一体何が変わるのかなという疑念も持っております。

特に今の大きな課題は人口減少であり、その人口減少の大きな流れをつくっているのは何かといいますと、やはり都市への一極集中。東京都への一極集中でもあり、北海道の場合でしたら札幌市への一極集中でございます。いかに地方をその流れを止めるような仕組みにするかというのが私は大きな課題だと思っております。

札幌市は北海道内の市町村によって支えられていると私は思っておりますし、さらには東京都も47都道府県の対応によって支えられていると思っております。これを変えようとしてさまざまな展開をしておりますが、なかなか定住せず、人口が減少している状況です。その対応を行政も含めて効率的に運用をしていこうということでこの連携中枢都市圏構想が始まったわけですから、今回計画されたさまざまな事業でいかに地域を支援できるか、実績が上がるかということが問われていると思っております。

私どもも含めまして札幌市に大変期待をしておりますし、さらには札幌市から関連する市町村にどういう形で支援していただけるか。これは260万人のための連携中枢都市圏でございます。全体を考える仕組みとして、年に1回会議を開催するとはいえ、特別交付税でしたら私ども構成市町村に入るかもしれませんが、予算そのものは全部札幌市が計上するなど、決定権がない中での議論となりますので、そういう意味での対応も含めてこれから十分議論していかなければならないと思っております。

圏域全体として、江別市として何ができるかも含めまして一生懸命努力してまいりたいと考えてございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 三好市長、ありがとうございます。

次に、千歳市の山口市長、お願いいたします。

○千歳市（山口市長） この連携会議でどういうことができるかは、今後皆さんで話し合っ、建設的な進め方をしていくことに期待をしておりますが、構成員の一人として千歳市としての考え方を述べますと、やはり高度なさまざまな機能が集積している札幌市と連携することは、ある意味では大変大事なことだと思っております。それが、しっかりと役割分担をせずに、ただ入っているだけでは、言葉は悪いですがけれども、経済的にいえばストロー現象が起きるでしょうし、また皆さんが問題にしているように、それぞれの地域では人口オーナスが起きるといことは必然であります。そのことをこの圏域で話し合っ、少しでも抑制し、高めていくという議論も必要ですがけれども、それぞれの構成市町村がこの連携会議をどう活用していくかということにかかってくるのだと私は受け止めています。

安倍総理が言うように、札幌市が人もお金も集中しながらどんどんどんどん大きくなっていくことによってトリクルダウンが起きてくれば非常に良いのです。道央圏は発展しているところですから、多少なりともそういう効果は今あるのだとは思っていますが、マイナスの面もないわけではないので、私どもとしては、この連携会議を通じてどういう活用、連携をさせていただくか、どういう役割を担わせていただくかということを考えながら参加者の一員としてやっていきたいと思っています。

どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

次に、恵庭市の原田市長、お願いいたします。

○恵庭市（原田市長） いよいよ「さっぽろ連携中枢都市圏」が動き出すのだなということを感じております。少なくとも私ども恵庭市民については、もちろん恵庭市民であるという自覚はあると思いますが、生活ということを考えれば、札幌があり、千歳があり、江別がありということで、行政区にかかわりなく活動しているわけであります。そんな中で、札幌という余りにもビッグなところと連携を深めていきながら、これからこの圏域の発展に努力をするという考え方は極めて有益だと思っております。積極的に参加していきたいと思っております。

このビジョンにおいて、私は、もちろん首長会議も重要だと思いますが、実務者会議が年間6回もあるということで、どういう考え方を持って、どういうふうに参加するのか、ぜひとも、せつかくできたこのさっぽろ連携中枢都市圏をそれぞれのまちにどうやって生かすかをしっかり考えながら、ビジョンなども見直しをしながら、もっと新しい形の中での施策というものができるのではないかと期待しております。

もうAIやRPAなどさまざまな合理化を進めなければなかなか自治体運営ができない時代となってきておりますから、どこに中枢機能があって、それをこの圏域でどのように活用していくかというようなこともそれぞれの行政事務レベルでもやれる可能性があるのではないかと考えております。そういったことも会議で話し合いがなされて、ビジョンに厚みや広がりが増していくことが大切なのではないかと今考えていたところであります。

以上でございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

次に、北広島市の上野市長、お願いいたします。

○北広島市（上野市長） 北広島の上野でございます。

本年3月に連携中枢都市圏の形成に係る連携協約ということで締結をいただきました。札幌市の皆様方には、この連携協約、またビジョンの位置づけなど大変ご苦勞いただいたものと考えておまして、感謝を申し上げる次第であります。

この後、民間事業者との連携ということでもありますけれども、圏域全体の活性化、安全・安心なまちづくりに寄与するものでありまして、こうした取組は連携中枢都市圏の意義と考えているところであります。今後それぞれの地域が持つ強み、特性を生かし、実効

性のある効果的な連携になるものと期待をしているところであります。

さて、本市の取組についてご紹介をさせていただきますけれども、北海道日本ハムファイターズボールパーク構想の推進につきまして、北海道全体でこの構想の推進をするということで、7月9日に「オール北海道ボールパーク連携協議会」を発足させていただきましたこと、関係自治体の皆様方にもご参加をいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。連携中枢都市圏とは異なる連携の枠組みではありますが、圏域、さらには北海道全体の成長と発展を目指しております、ここにお集まりの市町村の皆様、また民間事業者、国、道とも連携をした取組となっているところであります。道内外や国外からの来訪を促し、ボールパークを核とし発展を目指しておりますが、そのためには、やはり戦略的、また効果的なプロモーションが必要になるものと考えております。この方向性につきましては、連携中枢都市圏の目指す観光施策等ともつながるものと考えております。それぞれの取組により相乗効果が得られ、さらに圏域全体の発展、成長につながるものと考えているところであります。

本市といたしましても、引き続き札幌市をはじめ、圏域を構成する全ての自治体と連携し、圏域の発展に向かってしっかり役割を果たしていく所存でありますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

次に、石狩市の加藤市長、お願いいたします。

○石狩市（加藤市長） 石狩市長の加藤でございます。よろしくお願いいたします。

まず、私どもは石狩湾新港という札幌市さんから一番近い港を抱えております。隣接する工業団地では約670社が操業しており、2万人以上が就業しているのですが、その就業者の多くは札幌から通われています。逆に、石狩市民の多くは札幌市に通勤・通学という非常に特異な関係があって、札幌市さんとは密接不可分な位置に属する自治体であります。

また、場所は小樽市さんではありますが、本年2月には北電がLNG火力発電所を約56万キロワットで操業を開始し、電力の供給安定に向け稼働しています。加えて、私どもは再生エネルギーを100%利用した電力供給ゾーンの産業集積を行って、エネルギーを核とした新たな産業集積と低炭素社会の実現も図っているところであります。本日の新聞報道にもありましたが、大型蓄電池を設置することによって、緊急時にも港湾機能を維持し、また「さっぽろ圏域」における物資の提供も継続的にできるよう進化させることも必要なのだろうと思っております。

ただ、エネルギー集積基地においても皆様方と同様の悩みがあり、労働力の供給は追いついておりません。雇用の確保、移住の促進などについてはこのような会議を通じて皆様方と連携して取り組む効果に大いに期待をするものであります。年に6回行われる予定の実務者会議に私どもは大いに期待をしておりますので、ぜひとも今後とも良い議論ができるようにご協力、ご支援をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（小西まちづくり政策局長）　ありがとうございました。

次に、当別町の宮司町長、お願いいたします。

○当別町（宮司町長）　先ほど、主な連携事業の進捗状況ということで幾つかご紹介がありました。その中で、企業誘致の推進あるいは圏域外からの移住促進などはどのまちも力を入れていることでもありますし、こういった事業を競い合ってみんなで推進していくことは大変重要なことかと思えます。それに当たって、やはりこのグレーター札幌、「さっぽろ圏」で最もこれから力を入れていかなければいけないのは公共交通の強化だと私は思うのです。数日前に上野市長のところではボールパーク構想の会議もありましたけれども、そこでも申し上げましたが、人がまた来なくなる、リピーターを呼ぶためには、やはり公共交通がしっかりないと人は来てくれない。定住人口の増加にしても、交流人口の増加、観光客の増加にしても、この「さっぽろ圏」内の交通網の貧弱さというのは世界の200万都市の中で最たるものだというぐらいに、やっぱり公共交通が決定的に欠けていると思えます。鉄路の問題ももちろんですが、バスも、例えば新千歳空港から我々のような地方都市への快速バスなど走っていません。これから観光客がどんどん増えてくる中で一番大きな問題は、鉄路、公共交通の問題ではないでしょうか。もちろん鉄路といっても簡単ではないので、やはりバスをもっともっと使うということも必要ですが、我々が認識しなければいけないのは、この200万都市で私鉄が1本も走っていないようなまちというのはあまりないのです。ですから、私鉄の誘致もこの首長会議でしっかり議論をして、誘致をしていくことも1つの目的にしてはどうかと考えています。公共交通強化のためのタスクフォースを議論の中に入れていただいて、そして札幌との連携、それから、いわゆる外環状といった路線バスあるいは特定のバスの促進をみんなで行っていただく必要があると思えます。

昔と違って、観光客も個人客が70%以上ですから、決して観光バスに乗って動くわけではありません。リピーターを増やすためには、やはり公共交通。特に冬場は、スキーだけではなく、いろんなところに行ってもらうためにも公共交通の強化をぜひやっていただけたらと思います。

特に、ご存じのとおり、M a a S（マース）、モビリティ・アズ・ア・サービスがこれから盛んになってきます。それをやるにも、いわゆる5Gをこの域内でいかに早くつくるか。そういったことを考えると、1つこの公共交通に絞って、この中のタスクフォースをつくってもらったらというのが私の提案でございます。

最後に、もう一つ。資料の中で、この圏域の2040年の人口は、各市町村が独自に推計した2040年の人口ではないような気がいたします。我々は地方創生でK P Iとして出しているわけですから、その数字を併記でも良いのですけれども、我々が目的としている人口に目標を定めて何をやるかということを考えないと、ただ単に、235万人に減ってしまうようでは我々の目標としているところに到達しないのではないかと思いますので、ぜひそれも再考をお願いしたいと思えます。

以上であります。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

それでは、新篠津村の石塚村長、お願いいたします。

○新篠津村（石塚村長） 村長の石塚でございます。

今回「さっぽろ連携中枢都市圏」ということでありまして、札幌広域圏組合に続きましてまた新たな市町村の参加を得たと、特に空知圏域の市町村が参加されたということは、本村にとっては近隣でありまして、生活圏ですとか、住民の交流の多い市町でありますことから、今後のさらなる連携に期待をしているところでもございます。

特に、新篠津におきましては基幹産業である農業に対してまず希望など申し上げます。農業についても地域特性を生かした事業展開になると思っておりますが、本村は純農村地帯であり、これまで大都市近郊の農村という立場で広域連携事業に参画してまいりました。圏域が広がったことによって同様に農業に強みを持つ市町村が加わったことを受け、今後より地域農業の持続的発展を目指した事業展開をしていきたいと思っております。

もう一つ、資料2にあります重点施策の③、住民の安全・安心であります。近年大きな災害が全国で多発しております。新篠津は石狩川の右岸であり、特に下流、そしてまた平坦地で海拔が低く、ひとたび大きな水害が起きると逃げるところがないというのが正直なところです。皆様方と連携をとりながら、お互いに協力しながら災害時の対応などをしていきたいと思っておりますし、大都市の札幌等が大きな災害を受けたときには私どもも受け入れたり、物資の提供や人材の派遣ができるかと思っておりますので、これは考えていきたいと思っております。

最後に、この圏域に限らず、人口減、少子高齢化はほぼ全国全ての地域の共通の重大な課題です。関係する施策は幅広く、移住促進から地域PR、観光推進、福祉医療までまたがると思っておりますので、地域の持続・維持のため市町村の連携は欠かせないものと考えております。これからもよろしくお願い申し上げます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

次に、南幌町の三好町長、お願いいたします。

○南幌町（三好町長） 今回の「さっぽろ連携中枢都市圏」に、空知管内から我が町と長沼町さん、岩見沢市さんを入れていただきまして、誠にありがとうございます。

うちの町の住民は、生活圏、教育、医療、ほとんど札幌市さん、あるいは北広島市さん、江別市さんにお世話になっているところでありまして、そういう意味合いからいきますと非常に有難いことではないかと思っております。

また、知名度の向上ということでは、やはり「さっぽろ」という冠がつくと非常にわかりやすく、うちも工業団地あるいは住宅団地をたくさん抱えておりますので、企業誘致や移住・定住を含めて、この圏域に入れさせていただいたことは非常に有難いと思っております。

また道央圏連絡道路ができますと千歳市から小樽市までつながりますので、これらも活用した中で、また札幌市さんともいろんなことができるのではないかと思っております。

あわせて、我が町の隣の北広島市さんでボールパーク構想が実現に向かっておりますので、それらも含めて誘客施設等々いろいろ検討させていただきながら圏域の発展につながっていけばと思っております。

また、新篠津さんからもありましたが、災害、特に洪水の関係ですと、新篠津村さんと我が町は全町バリアフリーなので高いところがございませぬ。隣の長沼町さんや北広島市さんなどとうまく連携をし、災害のときには即逃げられるような体制づくりも含めてお願いできればなと思えます

町民の方は恐らく、「さっぽろ連携中枢都市圏」に入ったことに大きな期待を抱いているのではないかと感じます。最近には特に期待の声をかけられているところでもありますので、小さな町でありますけれども、何とか一緒になってやっていきたいと思っております。

あわせて、札幌市というのは私どもが思っているよりもっともっとすごいところでありまして、世界で「札幌」と言ったら全部わかります。それで、外国の方が一番感心するのが札幌の空がきれいだという事のようにあります。ぜひ近隣から環境に優しい形で札幌の空を将来守っていけるような、そんな連携中枢都市圏になっていけば、すばらしい圏域になるのではないかと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

それでは、長沼町の戸川町長、お願いいたします。

○長沼町（戸川町長） 長沼町の戸川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、「さっぽろ連携中枢都市圏」の取組で期待をしていることではございますが、長沼町は農業が中心の町で、多種多様な農産物が生産されております。「さっぽろ圏」での大きなイベントや催事への出展によるPRはもちろん、農産物を使った新たな商品開発の支援にも期待をしているところでございます。

この後、調印式を予定していると聞いておりますが、この連携事業をきっかけとして15社の民間企業との「まちづくりパートナー協定」が締結されるところでございます。圏域自治体の皆さんのみならず民間企業とも連携することで、まちづくりの幅も広がり、大きな可能性を感じているところでございます。

また、長沼町から札幌市に通学・通勤している割合が10%以上ということで、買い物などの生活圏におきましても多くの町民が札幌市を利用させていただいております。これから長沼町にも人を呼び込もうということで、これまでも道の駅やハイジ牧場、ながぬま温泉などご利用いただいておりますが、より一層相互交流ができるような取組にもしていただければと考えているところでございます。

また、当町の現状の課題といたしましては、公共施設や公共インフラの老朽化と人口減少、少子高齢化が進んでいるということが大きな課題ではございまして、公共施設につきましては圏域での相互利用や機能の集約化などの調査研究が行われるということで、一緒に協議していければと思っております。

また、人口減少につきましては、「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」におきまして2040

年時点での圏域人口240万人以上の確保が目標とされております。当町におきましてもその目標達成に向けて皆様と連携しながら人口減少対策に取り組んでいきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

今それぞれから一言ずつご意見をいただきました。皆様、非常にコンパクトに、わかりやすく意見をいただいたので、時間に若干余裕がございます。

この際、何かもう一言あればお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○江別市（三好市長） この資料の中で、「三次医療圏」という言葉がありますが、三次医療圏といいましたらこのさっぽろ圏域だけではありません。これは、ビジョンの「高次の都市機能の集積・強化」という役割のなかで、三次救急医療等の提供が挙げられていますが、三次医療圏といいましたら胆振などがすべて含まれます。ですから、これは「さっぽろ連携中枢都市圏」だけではなくて、後志全部、胆振全部、日高全部、札幌全部を入れた三次医療圏の整備をするのにこの連携中枢都市圏の費用を使うというのは、何となく変だなと感じています。全部の市町村の皆さんに負担していただくのが本来ではないかという気もしないわけではないのです。返事は結構でございますけれど、そういう思いでございます。

いずれにしても、やっぱり予算の使い方そのものが我々はなかなか物を申せないところがあって、事務担当者が6回会議をやるということでもありますので、そこで十分に打ち合わせをさせていただけるような、そんな場をつくっていただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。いかがでしょうか。

ないようですので、ここで本日オブザーバーとしてお越しいただいております北海道庁の長尾地域振興局長より、全体の議論を通じてご感想等をいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

○北海道（長尾地域振興局長） 本日はお招きいただきまして、ありがとうございます。ご紹介いただきました道庁地域振興局長の長尾でございます。

地域重視の観点から地域振興監という新しいポストができて、本日は松浦地域振興監が来る予定だったのですが、急遽所用がありまして、私が参った次第であります。

皆さんからのお話にもありましたが、全国的に人口減少、高齢化が進んでいます。なかでも北海道はとりわけ人口減少、高齢化が著しく、どうしても役場機能が縮小していきます。その中で、どんどん増える多様な事務をどうするかというのが大きな課題であり、これまで道庁としても、国の定住自立圏や、道独自の広域振興策などに取り組んできましたが、なかなか歯止めがきかない状況です。そうしたなかで、実は我々のセクションの中でも、もう一度市町村の方々と、今後10年、20年を見据えながら、どのように事務を広域的に行っていくか、道庁がどうフォローしていくか、という話をじっくりしようかということになっております。

そして、何といっても約260万人を抱えているこの「さっぽろ連携中枢都市圏」で今回広域連携を図るということで、これはもちろん全国的にも注目されています。我々も、3つの振興局が絡むため、今日は各振興局の担当課長が来ております。今後どのようなかたちで事業が展開していくのか大変期待しておりますし、我々もできる限りサポートしてまいりたいと考えています。

また、今日は、全自治体と民間15社がパートナー協定を結ばれるということで、「ほっかいどう応援団会議」という資料をお持ちしております。今、知事が公約で掲げている「ほっかいどう応援団会議」をこの9月に立ち上げたく、事務作業を進めています。これは、民間の知恵や力を活用して地域課題を解決するというもので、マスコミ報道では北海道がお金を稼ぐようなイメージですが、そのような仕組みではなく、道と市町村がタッグを組んで、ほっかいどう応援団拠点のポータルサイトを立ち上げ、ふるさと納税、クラウドファンディング、包括連携、ボランティア、こういったものをオール北海道で、民間の力を取り入れていこうというものでございます。ですから、参加してくださる市町村にはこれから我々が説明に入りまして、協力を求めていきたいと考えております。また東京など都市に出かけて、知事を先頭に市町村の皆様とともにトップセールスもしたいと考えております。このようなかたちで一緒に取り組んでまいりたいと考えております。

今週の新聞で、住民基本台帳に基づく人口が北海道は3万9,000人ほど減という報道がありました。北海道の人口は、各地方から札幌圏に入ってきて、札幌圏から東京の方に行くという傾向となっております。こうした流れをぜひ止めていきたいと我々も考えておりますので、これからもご協力いただければと思います。

本日はお招きいただきまして、ありがとうございます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） 長尾局長、ありがとうございました。

それでは、ここで全体を通して秋元市長より発言をお願いしたいと思います。

○札幌市（秋元市長） 今日は、ありがとうございました。

先ほど江別の三好市長からお話がありましたように、広域行政は今まで随分、形が変わってきていて、この会議の前に定例議会が開催された札幌広域圏組合といった一部事務組合にはじまり、市町村合併を推進する流れがあり、そして今回この連携中枢都市圏という考え方が出てきたのですが、やはり人口減少期における効率のようなものがややもするとテーマになってきます。国としての1つの狙い、目的というのはあるのかもしれませんが、私は、この「さっぽろ圏」においては、もちろん行政効率をどうするかということも議論のテーマの1つかもしれませんが、今日の皆様方のお話の中で、それぞれ持っている力を組み上げたときにどれだけ稼げる圏域になるのかということを目指していくというのが一番大きいのではないかと実は思っています。

札幌もですが、なかなか若い人の流出をとめ切れないというのも、最終的には雇用の場や経済力の弱さだと思っています。今、北海道の持っているもの、食、空港、また、「さっぽろ圏」には海、港もあります。そういうものを生かしながらプラスの部分はどうつくっ

ていけるのかということが、むしろこれからこの連携中枢都市圏で問われていく、あるいはつくっていかねばいけない事柄ではないかと思っています。

例えば農業生産一つとっても、非常に良いものができても、担い手を確保していくのが大変だというお話もありました。いかに農業なり農業生産できちんと生活していける若者をつくっていけるか、企業誘致ももちろん大切ですが、雇用の場を「さっぽろ圏」の中でどうつくっていくのかということをしっかり考えていかねばいけないのではないかと思っています。

上野市長からもボールパークの話がございました。ボールパークもいろんな課題がありますが、新たなものをつくり出して、そこに稼げるものをどうやってつくっていくのか。宮司町長がおっしゃっていた足の確保ですね。これは、今、新千歳空港がどんどん拡大をしてきて、多くのインバウンドの人たちに来ていただいても、二次交通を考えますと、「さっぽろ圏」への公共交通の本数を含めてなかなかサービスが提供できていない状況です。それらをJRさんだけに頼っていて本当に良いのかというようなことも含めて、議論を進めていかねばいけないのではないかと思っています。

もちろん人口減少に歯止めをかけていくということになるのですが、歯止めをかけるというよりも、むしろ今あるものをどうやって使って、拡大をしていけるか、ということをお我々はしっかり考えていかねばいけないのではないかと思っています。

先ほど「ほっかいどう応援団会議」の話もございましたが、いろいろな企業の皆さんの参画を得ながら、この圏域をどうやって高めていくのかという知恵を出していきたいと思っておりますし、そのための手法をしっかり議論していければと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

○事務局（小西まちづくり政策局長） ありがとうございます。

4 閉 会

○事務局（小西まちづくり政策局長） それでは、本日は約1時間にわたりまして首長会議をさせていただきました。まことにありがとうございました。